

箏唄

青森蛙

詩 藤井貞和
曲 高橋悠治

調絃



(↑は調子をはずれて)

手一覽

(八の糸上の手法中心) (押し手はすべて調子をはずして)

A

←八 八 八 四 ヨ ス八

シユツチーソレントオンレン

B

巾 為 巾 為 斗

ケツケツコーロリン

C

(カケツメ)

四五三四五八 二二三三三四七

カラカララテーソカラカララテーソ

D

十九八五³ 九八七³ 四³

コロロトーンコロロトーン

E

(モリアオガエル)

四……

テテテテテ

(次第に押す)

四ススス……

テレレレレレ

AとEの特徴をおぼえたら
それにもとづいて ちがう手や音をまじえて自由に演奏する

前弾きはA やがて少しBをませて

手唄

C

四五三四七六五ー 四五ー

モリアオガエルの 泡を 咲かせる、

D

五六七 五 四

ムカシネムノキを 採りに 行こうとして、

青森蛙 と言いまちがったから。
(少し)

合 **A** (**B**)

A (素)

「きみはもう あしたから 登校しなくてもよろしい。」と、

四

青森蛙

藤井貞和

モリアオガエルの 泡を 咲かせる、
ムカシネムノキを 採りに 行こうとして、
青森蛙 と言いまちがったから。

「きみはもう あしたから 登校しなくてもよ
しい。」と、先生は ぼくを まえに呼びだし、
クラスに 別れを つげさせると、いすを引いて。

「はい、行きなさい。 まっ青な森へ、
そらと 地上との まざるところ、
還れない森で ほおを ふくらませてなく、
力無い蛙に おなり。」

将来 発見されるはずの 衰える 水の湧き方は
ぼくの好みで、青い顔を 映す 泉が恋しくて、

クラスに おいてきた むつこもまた恋しくて。
ならんで咲きたい 泡の うえ。青森蛙。